理工学研究所･研究開発機構･社会共創推進機構研究発表会

Annual Joint Meeting of ISE , RDI , and OSCP, Chuo University

日　　時	2026 年　12月　4 日（金） 15:30～16:30 ポスター展示（自由見学） 16:30～17:30 ポスターセッション（発表者全員参加） 17:30～18:15 懇親会
共　　催	研究開発機構･社会共創推進機構
場　　所	中央大学後楽園キャンパス 3 号館 14 階　セミナールーム A･B
発 表 方 法	ポスター展示及びポスターセッションにより発表を行います。
参　　加	参加無料。ご自由にお入り下さい。
問 合 せ 先	中央大学研究支援室（理工学研究所担当）　rikoken-a-grp@g.chuo-u.ac.jp

◇17:30　ご挨拶 ◆理工学研究所長　　大隅　　久 ◆研究開発機構長　　志々目　友博	◇18:15　ご挨拶 ◆理工学研究科委員長　　庄司　裕子

● 共同研究第1類（基礎的主題、萌芽的課題）

	研究代表者	所属	研究テーマ
1	坪井 陽子	物理	太陽プラズマ中の粒子加速を捉える X 線分光偏光計の開発
2	鈴木 宏明	精密	マイクロ流路による多階層人工細胞構築基盤
3	新妻 実保子	精密	ケア支援用サービスロボットの社会的文脈への適応的コミュニケーション手法の確立
4	早川 健	精密	超リアル臓器シミュレータのための大変形可能な三次元ソフトアクチュエータ
5	村上 慎吾	電気	誘電率計測による抗ウィルス薬用ドラッグスクリーニングシステムの開発
6	石井 洋一	応化	大環状シロキサン分子の高効率･高選択的合成
7	原田 芳樹	人総	都市緑化が健康及びウェルビーングに与える影響の一連の定量化手法の確立

● 共同研究第 2 類（応用的主題・実用化に近い課題）

	研究代表者	所属	研究テーマ
8	中村 太郎	精密	蠕動運動のマルチモーダルセンシングによる混合度推定
9	橋本 秀紀	電気	磁力差を用いた磁気式アブソリュートエンコーダの高精度角度算出
10	檀 一平太	人総	周辺視野による視覚認知性を測る CovET 法の方法論拡充と神経基盤の確立

● プロジェクト研究（共同研究よりも実用化を目指した組織的な研究）

	研究代表者	所属	研究テーマ
11	手計 太一	都市	東南アジアの水文データ未観測流域における水災害レジリエンスの向上
12	加藤 俊一	DS	主観的状況解釈と動機の多様性に適合した行動変容支援システムの研究開発

● 研究開発機構

	研究代表者	研究テーマ	ユニット責任者
1	太田 秀樹	1-D consolidation theory developed based on in-depth experimental findings	平川 大貴
2	Harry,Yeh	Realization of 4-Fold Amplification of Solitary-Wave Mach Reflection	有川 太郎
3	柴山 知也	環境変動に対応する沿岸域防災の高度化と国際的研究	有川 太郎
4	竹村 吉晴	洪水時における河口部の流況・波浪場、地形変化の解析技術の開発	福岡 捷二
5	加藤 宏季	土石流 head 部の流下・発達機構における大粒径粒子の果たす役割の再評価	福岡 捷二
6	後藤 岳久	掃流砂と浮遊砂の一体解析(Q3D-INEBS)による 洪水中の河床波の移動・変形過程の解析 ー網状砂州河川斐伊川を対象にー	福岡 捷二
7	後藤 勝洋	六角川河道内湛水池群の設置による治水と環境機能の向上・活用	福岡 捷二
8	三苫 好治	AI を活用した害獣忌避システムの開発と社会実装に向けた取り組み	三苫 好治
9	小山 直紀	気候変動を踏まえた水環境の保全と水災害の激甚化に対応したデータサイエンスに基づく 我が国の水リスクコントロールに貢献する学際的研究	山田 正
10	鈴木 伸治	Network Science から考えるネットワークセキュリティ	山澤 昌夫

● 社会共創推進機構

	研究代表者	研究テーマ	イニシアティブ責任者
1	手計　太一	都市水害･避難･制度･空間をつなぐ研究基盤の構築	手計　太一

2025 年度に理工学研究所で行われた共同研究･プロジェクト研究および研究開発機構、社会共創推進機構の研究発表です。RA 研究発表会も同時開催いたします。お気軽に会場までお越し下さい。